

【めむろ未来ミーティング日程8】

令和5年1月12日(木)

15:00～16:01

毛根コミュニティセンター

(毛根・芽室太)

■参加者 2人

■芽室町 町長、副町長、教育長、政策推進課長、
農林課長、環境土木課長

■記録 角屋

■対応・検討が必要な事項

特になし

1 開会

2 町長挨拶

3 町からの説明事項

資料1 公共施設等再配置構想

資料2 まちなか再生の取り組み

資料3 マイナンバーカード臨時窓口

資料4 芽室町 LINE 公式アカウント説明書

4 意見交換

【意見】

以前マイナンバーカードの取得率が低いとの説明があった。国の方も申請促進をしているように見えるが。

【町長】

マイナンバーカードについては国がデジタル田園都市国家構想の中でかなり積極的に動いている。交付率が低い自治体、または、交付の伸び率が低い自治体はフォローアップ団体ということで、指導の対象

となるケースがある。芽室町でも数回その対象となった。現在の交付率は52.9%で約半分の人が取得しており、おかげさまで交付率が増えてきている。

芽室町は十勝の中で交付率は7位だが、十勝管内全体の交付率は道内の平均と比べ、低い。交付率が低い自治体には補助金の減額、地方交付税にも影響があるという話もでている。マイナポイント2万円分もらえるというメリットだけではなく、健康保険証とも紐づいているので、公立芽室病院であれば保険証の提示をしなくてもマイナンバーカードだけの提示でよいというメリットもある。診察実績が記録されるほか、確定申告における医療費控除は現在、紙で行っているが、マイナンバーカードを使用すれば簡単に申告できるようになってくるように、日常生活でマイナンバーカードを活用できるタイミングが増えてくると思う。

国も、そのような方向で進めており、例えば、住民票のコンビニ交付は現在していないが、コンビニ交付の導入など、町でもマイナンバーカードを活用できるようなサービスを整理していきたい。マイナンバーカード取得は強制ではないが、ぜひとも申請をしていただきたいという思いでPRしている。最近、役場の町民ホールにて常設で申請窓口を開設しているが、たくさんの方が来ている。申請率も直近で60%を超えており、増えている状況。ぜひ、周りの方にもPRしていただきたい。

【意見】

マイナンバーカードが使用できる医療機関は限られているのか？

【町長】

町内であれば、公立芽室病院をはじめ、町内の歯科医・薬局でも使用できる場所がある。今後、現在使用できない医療機関でも使用できるようになると思う。

また、役場の業務として、国から17項目言われており、例えば、住民票の交付の際はデジタルで申請して、送付する。そういった、「書かない窓口」のようなデジタル化をはじめ、町ではまず、17項目を進めて

くことになると思う。17項目とは、子育て関係、保健福祉関係、窓口での申請等が主。

■すまいる 11 月号の段階

- ・公立芽室病院
- ・松井歯科医院
- ・藤村歯科・矯正歯科医院
- ・めむろだいいち歯科クリニック
- ・ナカジマ薬局めむろ店
- ・正木薬局めむろ一丁目店

■1 月 8 日段階の追加

- ・はまだ内科医院
- ・いしがき歯科クリニック
- ・つがやす薬局芽室店



【意見】

マイナンバーカードの更新は必要か。

【町長】

マイナンバーカードは期限があり更新が必要。

【意見】

免許証と同じようなものか。

【町長】

おっしゃるとおり。マイナンバーカードだけではなく、DX、農業のデジタル化はもちろん、そういった分野を進めるために、今年4月から担当の係を置こうと考えている。デジタルに強い人というよりは、今の手続きや農家さんとの連携などを調整する役割で、最後にデジタルを被せるイメージである。手続きは法律上問題ないのか調整・協議をする担当を置いて、最後にデジタル化を入れる流れにしていきたいと思っている。すでに農業分野においては、農協とも連携して進めている。

【意見】

去年のめむろ未来ミーティングでも話題が出た、災害時における浴場の問題は怎么样了のか。

【町長】

公衆浴場については、新聞等の報道のとおり鳳の舞さんがやめ、公衆浴場がなくなったが、自治体には公衆浴場を確保しなければならないという責務がある。

現在、温水プールを建設中であるが、事業者から、町営プールの中に、温浴施設を作りたいという提案があり、これを認めた。その後、この温浴施設を公衆浴場として申請したいという話があった。許認可は保健所であるが、認可されれば公衆浴場という枠組みの中で、町としても支援していきたいと考えている。できる予定の温浴施設は、男女ともに洗い場5つ、浴槽1つ、サウナ1つで、災害時にも使用していただける想定だ。公衆浴場として認可されれば、町として一定程度市町村の役割を果たしていることになると思う。

一方で、魅力あるまちづくりという視点での温浴施設も大切であると考えている。まちなか再生の議論の中にも温浴施設を求める声がある。まちなか再生のなかで、温浴施設は魅力の1つだと考えているが、公営で温泉を作るという考えはない。民間の方々の資本を使いながらと考えている。最終的に、民間の方々が建設した温浴施設が公衆浴場になることはある。まちなか再生のなかで、温浴施設を復活できないかと思っている。

【意見】

新嵐山に温浴施設あることは理解できるが、市街地に温浴施設がないと何かあったときに不安である。

【町長】

おっしゃるとおりであり、めむろ未来ミーティングをはじめ、それ以外の様々場所でも温浴施設に対する意見が上がっているため、課題としては認識しており、現在、動き出しているのも事実である。

温浴施設は、町民の方々の健康維持にもつながり、また、憩いの場、コミュニティ創出の場にもなったり

するので、公衆浴場以外の役割もあるということは認識している。普通のお湯ではなく、温泉の方がいいと思っていて、鳳の舞さんは自噴の温泉を使用していた。今の温泉はお湯を運んでいる場所もあり、そういったやり方もある。

温泉を掘るとなると、かなりの費用がかかってしまう。新嵐山でも温泉ができないのかというご意見もいただくが、岩盤もあり、掘ることは難しいため、これから新たに温泉を掘るのことは困難である。十勝管内の温泉でもお湯を運んでいる場所が多いので、町内でもできない話ではない。もっといえば、新嵐山に、温泉を運んでほしいというご意見もある。

【意見】

先日テレビで拝見したのだが、若者がクラウドファンディングで家を改築しようとしている。やってみないと分からないと思うが、うまくいくものなのか。

【町長】

その取り組みをしている方は、4年前に移住ドラフト会議(移住したい方を選手に見立てて、企業や市町村が球団となってくじを引いて指名するイベント)にて、私が希望して引き当てた人材であって、芽室町地域おこし協力隊として採用した人物である。

彼は常々、1階が BAR、2階をゲストハウスにしたいと言っていた。今の仕事は「ジモト大学」をはじめ、社会教育関係だが、3年目で目途が立ったので、4月で地域おこし協力隊を卒業し、起業家として現在の仕事を継続しつつ、ゲストハウスをメインでやろうとしているもの。

はやるかどうか分からないが、ゲストハウスのネットワークもあると聞いている。ただ、修繕費もかかるということでクラウドファンディングをしているのではないかと。町としては、経済的な支援は難しいかもしれないが、まちなかの魅力の一つになると思うし、応援していきたい。

また、まちなか再生の一つとして、まちなかで何かチャレンジする方に補助金を出したいと思っていて、議会提案はこれから。起業する方のチャレンジに対し町として補助金を出すものである。この補助金を

修繕費にあてても良いので、上手に活用してほしいと思っている。対象区域や金額についてはお話しできないが、そういう面から支援していき、今後、まちなかの賑わいのために何か取り組みたい人を応援したいと考えている。この補助金については、ビジョンマップが完成する前から予算を確保して実施したいと考えている。

【政策推進課長】

先ほどのマイナンバーカードの話について、更新は20歳で区切り20歳以上の方は10年で更新。データは5年更新。20歳未満の方は5年更新。乳幼児や幼児の対応は国の方で検討している。

【意見】

マイナンバーカードを申請するとマイナポイントが電子マネーとして付与されると思うが、携帯電話等を持っていない高齢の方は通帳に振り込まれるのか。

【政策推進課長】

通帳への振り込みはしていない。

【意見】

電子マネーに対応したものを持っていない人はマイナポイントが付与されないのか。

【町長】

nanaco のような電子マネーに対応したものの発行をお願いしており、ポイントのみの付与である。手続きについては写真撮影から申請まで役場で行うことができる。

本日来られている方々は皆様、農家さんだが、来年の状況はどうか。まだ肥料が値上がりするという話もある。国は支援すると言っているが、どうなるのかわからない。

【意見】

物価の上昇率が5割に達しており、コストの12%くらいしか補助金がでない。

【町長】

国内では、堆肥の変換という話もあるが、簡単なことではないと思う。

【意見】

物も不足している状況なので難しいと感じる。清水町でも、畜産業を辞める人が増えている。そのため、堆肥が手に入らない状況となっている。清水町の堆肥が手に入らないとなると、遠方まで行く必要があり、運賃も上がり大変である。酪農家も餌代が上がっており、補助金を活用して、事業規模を拡大していた酪農家も多いと思うので、経営が大変なのではないか。

【町長】

酪農家さんに対して、国は積極的な拡大を求めているが、現在は子牛の価格も下がっている。町が全部支援することはできないので、国の支援も必要だと考えている。

【意見】

資材の価格も上がっており、農薬も価格据え置きの可能性もあるが、上がるという話もある状況。

【町長】

芽室町でいえば、ビートも減産となると、関連産業が衰退していくのが懸念され、危機感がある。実現できるか分からないが、町内の日本甜菜製糖ではビートを砂糖だけではなく、他のものに活用できないのか研究を行っており、例えば、ポケット燃料にできないのか研究しているそう。そういう話もあるので、国にそのような研究の支援を要望していくのも一つだと思う。土壌関係からもビートはとても大切な作物である。

【意見】

公立芽室病院の体制は現在のまま変わることはないのか。診療科が増減するなど。

【町長】

診療科については検討しているところである。

おかげさまで、新型コロナの補助金等もあり、経営状況は良くなっている。ただ、問題は新型コロナ禍後で、患者さんが戻ってくるのか、病院としてどういった特徴をだすのか、訪問診療や慢性期、回復期をメインにやっており、リハビリ等を強化していく。

公立芽室病院の方向性は帯広市のような急性期の病院ではなく、急性期の後の受け入れ先としての病院という位置づけである。

【意見】

新型コロナワクチンの助成は、来年は自己負担になるという話があるが、町としてはどのように考えているのか。

【町長】

深くまでまだ考えていないが、基本的に5類となれば、インフルエンザと同等となる。全町民分の予防接種代を町が負担するのかまだ言えないが、新型コロナの新しい変異株も出てきているので、5類になっても予防接種代はある程度国が負担するやり方もあるのではないかと考えている。そういうことも国に要望していきたい。

今も感染者や死者が増えてきており、新しい株も札幌市で確認された。国の方針等も注視して、判断していきたい。新型コロナの問題もそうだが、物価高騰にも危機感がある。

【意見】

1人5千円給付は東京都だけか。

【町長】

国や道の動きを見ないといけない。先に町として取り組むこともいいことだが、国や道も同じようなことをやってしまうことがある。国は6月に骨太方針を出す、それまでに異次元の子育て支援対策をするといった。過去には子育て支援（3万円給付）をすると行ってできなかった例もあるので、まだ状況はわからない。

最近の傾向としては臨時交付金として町が自由に使える交付金がなくなってきており、臨時交付金と

という言葉もでてこなくなってきた。ただ、町としても動かないといけないので、物価高騰対策として1億1千万使っている状況。

16 時01 分